

キャラクター名
百々(どうどう)百(もも)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	ノイマン					
オプション			年齢	11歳	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	自傷	初期侵食率	33%	
出自	名家の生まれ	経験	脱走	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	1	0			1	行動値	8
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	8
精神	6	0	0			6	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:UGN(コネ込み)	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
【実用品】	
コネ:UGN幹部	
【フレイバー】	
携帯電話	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
父親	P 尽力	N 敵愾心		
ライバル	P 執着	N 食傷		
玉野椿	P 執着	N 劣等感		
矢神秀人	P 好奇心	N 猜疑心		
不知火朧	P 連帯感	N 不安		
結希瑠輝	P 庇護	N 悔悟		
春日恭二	P 好奇心	N 敵愾心		

最大財産P: 4 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
常勝の天才	7	6	セット	視界	シーン選	自動	ピュア	
効果: 自身以外の攻+Lv×4。シフト。								
勝利の女神	5	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 判定直後、達+Lv×3。ラウンド1。								
アドヴァイス	1	4	Xジャー	視界	単体	交渉	-	
効果: C値を-1&判定ゲージ+Lv個								
天性のひらめき	3	4	Xジャー	-	-	効参	-	
効果: 戦闘外全判定C値-Lv(下限7)								
代謝制御	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 代謝機能を完全に把握する								
プロファイリング	★	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 少しの情報から真実を得る								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【プロフィール】
ある者からは快活な学生に見える。ある者からは庇護すべき幼子に見える。ある者からは冷徹な指し手に見える。見る角度によってまるで異なる色彩をはなつ少女。ゆえに人々は彼女をこう呼んだ。カレイドスコープ、万華鏡と。

過去は家系図をさかのぼれば嘘かまことか平安貴族までたどり着き、今もなお周囲に確固たる影響力をもちUGN幹部の一席を占める名家に生を受ける。生まれつきのオーヴァードと診断された彼女を父親はUGNに『提供』。以後チルドレンとしての教育を受ける。肉親の情を求め泣きわめいた日もあった。実際、オーヴァードとしての力を掌握したのも愛を求めた努力の果てだった。今となっては血が繋がっているだけの上司のひとりである。

そのような生い立ち故にかつてUGNに対する情は無きに等しく、八歳のときに同施設のチルドレンを煽動して集団脱走を企てる。教官たちによって鎮圧されたのち、首謀者として動機を問われた彼女はこう答えた。
「なんとなくできそうだったから」

経験、実力ともに格上の教官相手に未遂の段階で防ぐことができず鎮圧騒動にまで発展させたその作戦立案能力と、実力に反比例するようなUGNへの忠誠心の低さは当然問題視されたものの、能力の評価が若干上回り、教育的指導の強化という処分が下される。その担当教官が玉野椿だった。

チルドレンの最年長者組の椿と接していくうちに、ゆっくりと少女はUGNと向き合うことを知っていた。鎮圧騒動の際に、少女からしてみればただの手駒として扱った同僚たちから頼りがいのあるリーダーと会うたびに慕われた影響も少なくなかっただろう。

彼女が十歳になったとき、十分にチルドレンとして機能しようという判断が下された。

肉体年齢的には小学校高学年であるものの、ノイマンシンドロームによって知能が異常に発達した彼女は早熟を通り越して狡猾の域に達しており、素の雰囲気はきわめて小柄な高校生といっても十分通じる。

その特色を生かし、人手が足りない区域に年齢を偽って中学生、高校生として潜入することが多い。彼女は自分が周囲にどのように見えるかを常に意識しており、相手に合わせて自身を演じ分けることを知っている。